



英語を使って何ができるようになるかを明確にした CAN-DOリスト形式の目標 及び 評価規準の設定、評価の工夫

目標達成に向け、
バックワード・デザイン
による単元構成、
授業構成

- ★ CAN-DOリスト形式の目標及び評価規準を設定し、年間指導計画及び単元指導計画を作成
- ★ 評価方法・評価場面の工夫
- ★ 評価後の指導の充実



できるようになったことを評価するにあたって、ルーブリックを活用したパフォーマンステストの実施、ペーパーテストの問題作成の工夫（中学校）、授業中の言語活動の観察等、評価方法・評価場面の工夫するとともに、テスト等の実施後に、児童生徒の意欲向上につながるフィードバックを行うことが大切です。

指導した
ことを評価
評価する
ことを指導

使いながら英語を身に付けられる授業づくり

① 教師は英語を使用する モデルとなる

- ★ 中学校では、授業は英語で行う
- ★ 挨拶や指示だけでなく、説明や発問、課題の提示等を英語で行う
- ★ 教師も英語で自分の気持ちや考えを生徒に伝える

② 互いの考えや気持ちを伝え合う 対話的な活動（言語活動）の実施

- ★ コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にする
- ★ 児童生徒の関心がある事柄や日常的话题を、中学校ではさらに社会的な話題等を提示する
- ★ 学習した語彙や表現等を実際に活用させる

③ 言語活動を繰り返し実施

- ★ 一度きりの活動ではなく、指導や支援を行い、再度活動を行って定着を図る

年間を通して、
1単元や1単位
時間の中で、
スパイラルに実施

最初よりも言いたいことが言えた！



言語活動

指導

言語活動

例えば…

うまく言えなかったこと等をクラスで共有、指導（児童生徒の気付きを大切に）

ペアを代えてもう一度やってみる

- ★ 4技能（5領域）を関連付ける

（例）Small Talkの実施

帯活動で、あるテーマについて、教師のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の気持ちや考えを伝え合ったりする

授業づくり
の視点

★ 小・中学校の接続、学びの連続性を意識

★ ALTの活用

★ ICTの活用

★ 語学の習得には時間がかかることを認識し、児童生徒の可能性を引き出すよう、粘り強く指導

児童生徒が英語使ってできるようになること (CAN-DO)

中学卒業時
CEFR A1程度
(英検3級)

(小・中学校
で2500語程度)

<中学校>
学習語彙
1600
～
1800語

小学校では
小中学校との
接続や
学びの連続性を意識

<小学校>
学習語彙
600
～
700語

聞くこと

はっきりと話されれば

日常的话题 **について**
・必要な情報を聞き取る
・話の概要を捉える

社会的な話題 **について**
・短い説明の要点を捉える

できる

話すこと(やり取り)

・関心のある事柄
・日常的话题
・社会的な話題に関して
聞いたり読んだりしたこと **について**

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し
簡単な語句や文 **を用いて**

・即興で伝え合う
・伝えたり、相手からの質問に
答えたりする
・考えたことや感じたこと、その理由
などを述べ合う

できる

話すこと(発表)

・関心のある事柄
・日常的话题
・社会的な話題に関して
聞いたり読んだりしたこと **について**

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し
簡単な語句や文 **を用いて**

・即興で話す
・まとまりのある内容を話す
・考えたことや感じたこと、その理由
などを話す

できる

読むこと

日常的话题 **について**
・簡単な語句や文で
書かれたものから
必要な情報を読み取る

・簡単な語句や文で
書かれた短い文章の
概要を捉える

社会的な話題 **について**
・簡単な語句や文で
書かれた短い文章の
要点を捉える

できる

書くこと

・関心のある事柄
・日常的话题
・社会的な話題に関して
聞いたり読んだりしたこと **について**

事実や自分の考え、
気持ちなどを整理し
簡単な語句や文 **を用いて**

・正確に書く
・まとまりのある文章を書く
・考えたことや感じたこと、
その理由などを書く

できる

中3
中2
中1
小6
小5
小4
小3

ゆづりはっきりと話されれば
・自分のこと
・日常生活に関する身
近で簡単な事柄 **について**

・簡単な語句や基本的
な表現を聞き取る
・具体的な情報を聞き取る
・短い話の概要を捉える

できる

・日常生活に関する身近で簡単な
事柄
・自分や相手のこと及び
身の回りの物に関する事柄 **について**

簡単な語句や基本的な表現 **を用いて**

・自分の考えや気持ちなどを伝え合う
・指示、依頼をする、それらに
応じる
・その場で質問をしたり、質問に
答えたりして伝え合う

できる

・日常生活に関する身近で簡単な
事柄
・自分のこと **について**

簡単な語句や基本的な表現 **を用いて**

伝えようとする内容を整理した上で
・話す
・自分の考えや気持ちなどを話す

できる

・活字体で書かれた文字を
識別し、その読み方を発音
する

・音声で十分に慣れ親しんだ
簡単な語句や基本的な表現
の意味が分かる

読むことができる

・大文字、小文字を活字体で書く
・自分のことや身近で簡単な事柄 **について**

音声で十分に慣れ親しんだ
簡単な語句や基本的な表現を
・語順を意識して書き写す
・例文を参考に書く

できる

ゆづりはっきりと話された際に
・自分のことや身の回り
の物を表す簡単な
語句を聞き取る

・身近で簡単な事柄に
関する基本的な表現
の意味が分かる
文字の読み方が発音される
のを聞いた際、どの文字が
分かる

自分や相手のこと及び身の回り
の物に関する事柄 **について**
動作を交えながら
サポートを受けて
簡単な語句や基本的な表現 **を用いて**

・自分の考えや気持ちなどを伝え
合う
・質問をしたり質問に答えたりする

・身の回りの物
・自分のこと
・日常生活に関する身近で簡単な
事柄 **について**

人前で実物などを見せながら
簡単な語句や基本的な表現 **を用いて**

・話す
・自分の考えや気持ちなどを話す

使いながら英語を身に付けられる授業づくり

★言語活動(互いの気持ちを伝え合う対話的な活動)の充実

★小・中学校の接続、学びの連続性を意識

★ALTの活用

★ICTの活用

★語学の習得には時間がかかることを認識し、児童生徒の可能性を引き出すよう、粘り強く指導

できるようになったことを評価するにあたって、ルーブリックを活用したパフォーマンステストの実施、ペーパーテストの問題作成の工夫(中学校)、授業中の言語活動の観察等、評価方法・評価場面を工夫しましょう。



新学習指導要領全面実施チェックリスト（中学校外国語）



英語を使って何ができるようになるかを明確にした CAN-DO リスト形式の目標及び評価規準の設定	
	CAN-DO リスト形式の目標及び評価規準を設定し、年間指導計画及び、単元指導計画を作成している
	CAN-DO リスト形式の学習到達目標を生徒に示し、日々の指導に活用している
	目標の実現に向けたバックワード・デザインによる単元構成、授業構成を行っている
英語を使ってできるようになったことを評価する評価方法の工夫	
	「話すこと[やりとり・発表]」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのパフォーマンステストを少なくとも学期に1回は行っている
	パフォーマンステストを実施する際には、ルーブリックを作成し、生徒と共有している
	テスト実施後等に、できるようになったことを認めたり、成果や課題を明らかにしたりする等、生徒の意欲向上につながるフィードバックを行っている
授業は英語で行うことが基本	
	授業が実際のコミュニケーションの場となるよう、挨拶や指示だけでなく、説明や発問、課題の提示等を英語で行っている
	教師自身が自分の気持ちや考えを英語で生徒に伝えている
	教師が英語を使う際、生徒の理解度に応じて発話の速さや明瞭さ、表現の難易度を工夫している
互いの考えや気持ちを伝え合う対話的な活動（言語活動）の実施	
	生徒が英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を行っている
	言語活動を設定する際に、コミュニケーションを行う目的、場面、状況を明確にしている
	「即興性」及び「やり取り」を意識した言語活動に継続的に取り組ませている（Small Talk 等）
	生徒の関心がある事柄や日常的な話題、社会的な話題等、生徒にとって身近な話題を設定している
	1 単位時間や単元全体をとおして、学習した語彙や表現等を実際に活用させる指導を行っている
言語活動を繰り返し実施	
	「言語活動→指導→言語活動」の繰り返しの中で、生徒の資質・能力を高めていくことを意識した指導を行っている
	「聞くこと」「話すこと [やり取り・発表]」「読むこと」「書くこと」の領域を関連付けた指導を行っている（読んだ内容について意見を述べる活動 等）
小中連携を図り、小学校との接続及び、学びの連続性を意識した授業づくり	
	校区内の小学校の外国語活動・外国語の授業を参観している
	校区内の小学校の外国語活動・外国語担当教員等と指導計画や方法、児童生徒の学びの状況等について、情報共有や協議を行っている
	小・中学校の接続を意識し、小学校段階での学びを生かした指導を行っている（小学校で使用されている教材を活用する、小学校で取組んだ言語使用場面を生かしている 等）
その他授業づくりにおいて重視すべき視点	
	ALT を効果的に活用している（TT の時間数に学級や学年で偏りが無い、ALT と JTL で打合せや振り返りを行っている、ALT と生徒が直接やり取りをする場面を設けている 等）
	視聴覚教材や ICT 機器を目標達成のために効果的に活用している
	語学は、はじめはうまくできなかつたり、誤りのある表現を使用したりすることは当たり前であり、繰り返し使いながら身に付けていく、という認識のもと、生徒の可能性を引き出すよう粘り強く指導している
	指導初期段階では「書くこと」に関して正確性を求めすぎないようにしている